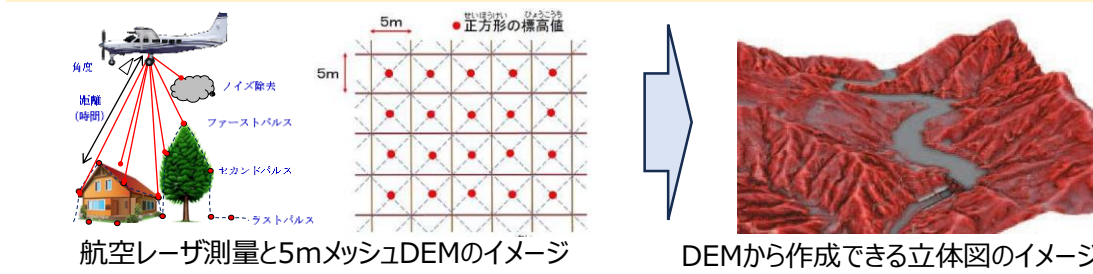


【抽出作業に用いたデータ】

- 新たな箇所の抽出には、以下のデータを用いて行った。
- 地形の抽出：高精度の地形情報として**航空レーザ測量データ**（LPデータ）から作成された**数値標高モデル（DEM）**を用いて、がけ地（急傾斜地の崩壊）や渓流（土石流）の抽出を行った。
  - 保全対象の確認：株式会社ゼンリンの**建物ポイントデータ2021**を用いて、被害のおそれのある建物を確認した。

【数値標高モデル（DEM）のイメージ】

DEMは地表面を等間隔の正方形に区切り、それぞれの正方形に中心点の標高値を持たせたデータで、立体図の作成や三次元可視化等に活用される。今回は、LPデータから作成した**5mメッシュDEM**を使用して抽出を行った。5mメッシュDEMは、**詳細な地形表現**（標高・傾斜など）が可能な**高精度な地形情報**である。

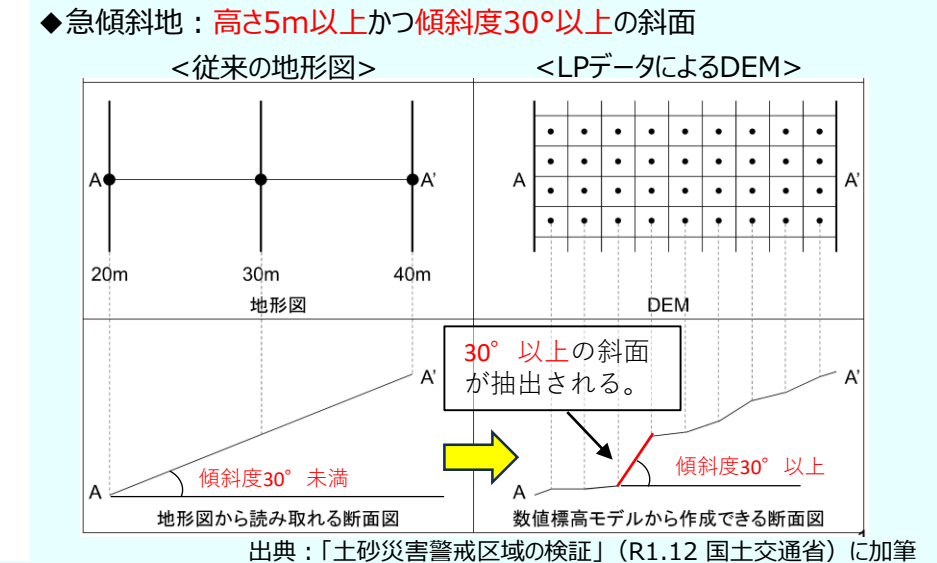


【5mメッシュDEMによる土砂災害発生箇所の抽出事例】

- **地形図判読**では**急傾斜地の地形要件**（高さ5m以上かつ傾斜度30°以上）を**満たさない**ことから、土砂災害警戒区域の**指定の無い箇所**で**がけ崩れ**が発生した。
- 災害後に国土交通省が**5mメッシュDEM**を用いて解析したところ、**急傾斜地として抽出できた可能性がある**ことが分かった。



【数値標高モデル（DEM）による抽出精度向上のイメージ】



- ◆**渓流**：**10m等高線で1次谷**（「谷の奥行き>谷幅」となる谷地形）を持つ渓流
- <従来の地形図（縮尺1/25,000）とLPデータのDEMから作成した等高線の重ね図>

